

会員の皆さまのリクエストにおこたえてユニークなゼミを担当の先生から紹介してもらうコーナーです。

このゼミに注目！ 第1回

橋詰ゼミ



高知市沢田マンションの見学

文学部 地理学科
(地域文化研究専攻)

教授 橋詰 直道

専門分野：人文地理学
演習テーマ：都市と生活環境の研究



「地方都市でのフィールドワーク」



高知市帯屋町商店街で女性ボランティアへの聞き取り調査

昨年の高知市でのフィールドワークでは、ゼミ生十七人が、6月末に3泊4日の日程で①観光に見る大河ドラマ「龍馬伝」効果②超高級ブランド農産物「徳谷トマト」、「三里グロリオサ」の栽培③郊外型大型店舗の進出に伴う中心商店街「帯屋町筋」の対応④「弥右衛門土

今年、駒澤大学に地理学科が創設されて82年、これまでに約七千人の同窓生を輩出してきました。この伝統ある「駒澤地理」では、創設当初から「巡検」と称する地域調査の授業が重視されてきましたが、それは今日でも毎年日本各地でゼミごとに行われるフィールドワークの授業として受け継がれています。

私のゼミでは、3年生を対象に毎年「地方都市の機能と自立」というテーマでフィールドワークを行い、報告書を作成しています。最近の調査地は、NHK大河ドラマで注目された高知市(2010年)や米沢市(2008年)、歴史的町並みを生かしたまちづくりを進めている長野県小布施町(2009年)や愛媛県西予市宇和町(2007年)などです。ゼミではこの他、日曜日帰りフィールドワーク(巡検)も行っています。



高知市徳谷トマト農家での聞き取り調査

現地では、とにかく歩いて何でも見てみる。そして、地元の人に話を聞いてみることから始まります。そのうえで、土地利用などオリジナルな地図を作成することを求めています。夜は、調査結果を発表し、レポートをまとめなければなりません。少々厳しいように聞こえるかもしれませんが、この充実した経験が重要です。皆、楽しみながら真剣に取り組んでいます。この調査テーマからわかるように、フィールドでは農業、商業、観光、都市計画など色々な分野の調査をしています。こうした多面的な調査から地域の実態を浮かび上がらせるのが地理学の醍醐味です。

こうしたフィールドワークによって地域を体感し、調査の手法を学ぶことができるのが地理学科のゼミの特徴です。今年からこのフィールドワークを含む特定の科目を修得すると、卒業後、(社)日本地理学会認定の「地域調査士」の資格を得ることが可能になりました。今後もフィールドワークの楽しさと重要性を学生に伝えていきます。

地区画整理事業
地区の土地利用⑤
ユニークな集合住宅「沢田マンション」の社会的役割、
というテーマで調査しました。